



# 薬 奨 ニ ュ ー ス

No. 14

January 2012

[巻頭]

- ・ご挨拶 寺尾 允男 ..... 1

[特別寄稿]

- ・研究評価に思うこと 杉浦 幸雄 ..... 2

[薬学への期待]

- ・薬学の多様性と可能性 安西 和紀 ..... 5
- ・薬の未来：超高齢社会と個別化医療 安原 真人 ..... 6
- ・高齢化とヒトの幸せ 山登 一郎 ..... 7

[薬学研究への道]

- ・将来の夢 伊藤 彰近 ..... 8
- ・「舎短取長」と書かれた色紙 佐野 茂樹 ..... 9
- ・なぜ今、研究者として研究しているのか？ 西山 成 ..... 10

[話題]

- ・第5回 生体金属元素と遺伝学の国際会議（ICMG2011）の開催について 榎本 秀一 ..... 11

・理事 矢内原千鶴子氏のご逝去を悼んで

・編集後記

・スケッチ

「アーケードの朝」

辻 章夫



(財) 薬学研究奨励財団

The Research Foundation for Pharmaceutical Sciences (RFPS)

## 「舎短取長」と書かれた色紙

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・分子創薬化学分野  
教授 佐野茂樹



徳島大学薬学部に助手として着任してから、はやくも20年余りの歳月が経過しました。その間、助教授であった2004年には「光学活性ホスホノ酢酸エステル及び類縁体の合成開発と不斉HWE反応への応用研究」という研究課題に対する貴財団よりのご支援とともに、薬学研究を進めるうえでの大きな自信と勇気をいただきました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

さて、2007年より主宰させていただくこととなった分子創薬化学研究室の私の部屋には、デスクからよく見える場所に「舎短取長」と書かれた色紙が飾ってあります。昭和48年3月19日と記された古びた色紙は、2006年3月に閉校となってしまった母校である守口市立土居小学校の卒業式で、当時校長をされていた櫻井角市先生より卒業生全員がいただいたものです。

話はさらに遡りますが、私が小学校低学年だったころの取るに足りない出来事におつき合い下さい。授業が終わるといつも友人と遊んでいた遊び場のひとつに、近隣の神社がありました。街中の小さな神社で、境内の参道の両脇には石灯籠が置かれてありました。特に立派な石灯籠というわけではありませんが、小学校低学年の児童にとっては身長をはるかに越えるるとつもなく巨大な物体に思えました。ある日の午後、いつものようにみんなで遊んでいると、この石灯籠は上中下のそれぞれの部分がくっついてあるのか、あるいはただ積み上げてあるだけなのかということで、言い合いが始まりました。「石は積んであるだけや!」「くっつけてなかったら、崩れてしまうやろ?」「試してみよか!」「どうやって?」「一番上の石にひもを引っ掛けて、みんなでひっぱったらええねん!」「崩れたらどないする?」「くっつけてあるから、崩れるはずないやろ!」と

いうことで、石灯籠にひもをひっかけてみんなで引っ張りました。恐る恐る引っ張っただけでは石灯籠はびくともしません。最初は恐る恐るだったのが次第に調子に乗ってきて、みんなでえいっ!と力を合わせた瞬間、石灯籠は大きな音とともに地面に崩れ落ちました。蜘蛛の子を散らすとは、まさにその時の光景で、みんなはてんで走ってその場から逃げ去りました。その後の顛末についての記憶は定かではありませんが、以後神社の境内で遊べなくなってしまったのは大きな誤算でした。幸いにもだれも怪我をしなかったことに今更ながら安堵していますが、石灯籠が崩れ落ちたときのインパクトとはとつもなく大きなものでした。崩れたこと自身に驚いたのはもちろんですが、積んであるだけだという事実を自分たちで確かめることができ、その事実は誰よりも自分たちが知っているという妙な達成感に満ち溢れていました。たわいもないお話ですが、小学校時代の小さな出来事が研究というものの遙か彼方の原点として、現在の日常にどこか繋がっているような気がしてなりません。

小学校卒業後、達筆でしたためられた「舎短取長」の色紙を大切に携えて過ごしてきましたが、なかなか飾る場所には恵まれませんでした。40年近い歳月を経て今ようやくその場所を得た古びた色紙を見るたびに、なぜか石灯籠のことが鮮明に思い出されます。2006年度からは薬学部の修学年限が延長され、来春には早くも第1期生を送り出すことになりました。気が付くと、研究室では長男と同年の学生が実験に取り組んでいます。まさに歳月人を待たずですが、「短を捨てて長を取る」の意味を改めて熟考しながら、研究心の原点を忘れることなく、多くの学生諸氏とともに薬学研究に取り組んで行ければと願っています。